

博士課程教育リーディングプログラム 平成25年度プログラム実施状況報告書

| | | | |
|--------|-------------------|----------------|-------|
| 採択年度 | 平成24年度 | | |
| 申請大学名 | 金沢大学 | 申請大学長名 | 山崎 光悦 |
| 申請類型 | 複合領域型（多文化共生社会） | プログラム責任者名 | 中村 慎一 |
| 整理番号 | L01 | プログラムコーディネーター名 | 鏡味 治也 |
| プログラム名 | 文化資源マネージャー養成プログラム | | |

<プログラム進捗状況概要>

1. プログラムの目的・大学の改革構想

本プログラムが取り組むのは、「多文化共生」をさらに一歩進めた「多文化共用」という将来的課題である。文化の違いも人類全体で共有する資源として、その価値と有用性を評価する姿勢を涵養することがグローバル社会での喫緊の課題であり、「多文化共生」の理念を浸透させるために、実社会へのコミットメントを継続できるリーダーの養成とネットワーク形成も社会的課題である。金沢大学は「東アジアの知の拠点」として、また「地域と世界に開かれた教育重視の研究大学」として、今後世界の中心となるアジアを主眼に置いた人材育成及び教育研究機能の強化に努め、平成24年4月には「グローバル人材育成推進機構」、「先端科学・イノベーション推進機構」、「国際機構」を設置した。本プログラムは本学のグローバル人材育成のための中心的プログラムのひとつであり、国際的教育研究拠点形成の中核事業のひとつでもある。

2. プログラムの進捗状況

平成25年4月にはプログラム1期生7名が入学し、プログラム用に編成された英語による授業を開始した。4月中旬にはプログラムの出発を記念してオープニング特別講義を開講し、留学生を派遣した海外協定校の担当教員および国内の国立民族学博物館所属の担当教員を招いて実施した。

8月から9月にかけては、1年次生対象の必修科目「文化資源学現地研修」の一貫で、7名を中米ホンジュラスの世界遺産であるマヤ文明遺跡に派遣し、現地で文化資源保護・活用に関する研修を実施した。また平成26年2月にも同様の海外研修をインドネシアのジャワ島中部で行った。国内での同様の研修は6月から9月にかけて金沢市内や能登半島、富山県五箇山や愛知県の明治村およびトリトワールド博物館等の文化施設でも実施した。

2期生の募集に関しては、まず10月に海外協定校に推薦の依頼を行い、11月にスカイプ等での面接を行って4名の候補者を決定した。3月には日本人志願者を対象にした面接を行い3名の候補者を決定した。プログラム候補者選定に先立つ大学院入試では、プログラム希望者が5名いたものの、1名は入試不合格、1名は入学辞退となり、結果としてプログラム日本人学生定員4名に1名足りないことになった。

プログラムの宣伝広報に関しては商業誌に紹介記事の掲載を依頼し、大学ホームページのなかにプログラム専用のページを設置して随時更新した。また日英両語版のニューズレターを1～3号と英語による文化資源学の副読本を印刷発行した。